

「医科・歯科統合医療」事始め

追加発表：症例提示

宅重 豊彦 Toyohiko TAKUSHIGE

堀田 修クリニック 〒984-0013 宮城県仙台市若林区六丁の目南町 2-39

現在、私は堀田修クリニックで腎臓病をはじめ高血圧症、糖尿病、膠原病などの治療の一助として歯科治療を行っています。腎臓病は厄介な病気です。例えて云うと、トイレのない家に住んでいるようなもので、生活の中で出るゴミを頻りに外に廃棄しなければ、家の中が汚れて住めなくなってしまう、そんな全身病です。

全身病の治療に歯科医が拘わることは、これまでも発表されています。それは「点滴や胃腸より口から食べる方が良い」とか「口腔内細菌が他の臓器に飛んで炎症を起こすのを防ごう」とするものです。

Iga 腎症は治らない病気と云われていました。院長の堀田先生は、慢性炎症の扁桃腺を摘出し、ステロイドの短期投与を繰り返す「ステロイドパルス療法」を施術して90%以上の寛解率を実現しています。扁桃腺の炎症が遠因となって腎臓病が発症するという概念に基づいた治療法です。炎症→免疫細胞の持続的活性→免疫システムの混乱→自己免疫疾患の発症、あるいは、炎症→免疫細胞の持続的活性→白血球の血液像変化→交感神経優位→活性酸素による組織破壊→発症、という概念があります。つまり、慢性炎症と自律神経のバランスの狂いが病気の源というわけです。

根尖病巣、歯周病は典型的な慢性炎症です。異

常咬合は、イライラを募らせ(交感神経優位な状態)筋肉の異常緊張を引き起こすことが知られています。これらを守備範囲とする歯科治療が腎臓病・高血圧症等の内科疾患治療に有効な援軍となりうるが見えてきました。そして、口腔内炎症疾患の高い治療率を実証している3Mix-MP法と異常咬合の診断と治療に実績のあるBiofeedback療法を統合した広義の3Mix-MP法(宅重療法)は、確実に慢性炎症を消し、安定した咬合を構築して自律神経の交感神経優位な状態を改善できると思われれます。

今回、その可能性を実証する第一段階として根尖病巣を消すことで改善したリウマチ、咬合調整で改善した高血圧症、歯周病治療と咬合構築で経過良好な膠原病の症例を供覧しました。

患者: リウマチ 58歳 女性
主訴: #27の咬合痛



処置:
・9/7 NIET
・9/14症状軽減
・9/19 PZ-imp
・9/28 冠set

患者: 58歳 女性

全身状態: リウマチで40歳から通院中
・両手の指が硬直 改善
・つかまり歩き 改善

口腔内所見:
・軽度の歯周病
・#27根尖性歯周炎

たった1回の根管治療で、根尖病巣が消失
これが出るのは
3Mx-MP法だけ。

咬合と血圧との関連が疑われる症例



患者: 47歳 男性

全身状態: 高血圧症で通院中
・95-170 72-132

口腔内所見:
・軽度の歯周病
・#17C3

咬合調整で血圧が下がった
咬合が全身状態(血圧)に関与か?
これが出るのは
3Mx-MP法だけ。

口腔内所見:

- ①根尖病巣: # 22, # 48
- ②# 47は舌側に傾斜し、鉤歯として不適
- ③下顎義歯は金属床(咬合が低く、スペース不足の為)
- ④左上顎洞が曇っている。



初診から26年間、治療と口腔ケアに携わった。

- ・根尖性歯周炎を治す
- ・欠損補綴(部分床義歯を装着)と管理
- ・咬合改善と管理
- ・歯周病治療

25年間

患者は、「膠原病」仲間の病状の進行を見てきた。

一方
自分は25年前とほとんど変わらないことにも気付いた。
主治医も気付いていた。